

昭和17年12月1日（火）

朝降雨、街路掃除せず。切手類の請求準備す。9時頃、西野三二郎氏より、印紙千三百余円の請求ある旨、電話あり。現金立替方申出られたるも、直に持参する様返事せり。余多忙に付き、ミワさんに行つて貰ふ。外に資金の請求もあり。昨夜、常会にて湯茶を多く飲み過ぎたる為か、坊や寝小便頻繁、敷き布団数枚を汚す。ミワさんの分まで及ぼす。雨は午前中にて歇み、午後より幾分明るくなり、夕方より晴れ空を望む。家主さんの娘さん来たり。去年の絹綿チョッキ等を持来たり、買って呉れと薦む。貯金切手を自分等の手にて売捌くことも話ありしと。坊やのちゃんちゃんと、ミワさんの分と10円以上求められ、事後余に示さる。金のないのに求められたものかなと驚くの外なし。午後1時から3時まで、豊田校にてチブスの注射あり。大同薬店の女将と娘とが、枕を駢（なら）べて臥床の病因も夫れらし。局員全部交代に出掛け、注射を済ます。木炭粉末より作成の煉炭、西野より求め、小母車にてミワさん持来らる。神様よりの木炭は一時的にて忽ち消火、炬燵に適せず。今日神詣でさる。

昭和17年12月2日（水）

6時半と云ふに猶暗し。4時起床。弓張月、影清し。昨、貯金切手窓口10枚程売れ、電報総計表の報告準備に着手。澄子より葉書。二郎より淳へ贈り越せるベビー服を、同僚への生児に対する贈り物にしたい由。道子の通知に基づき照会し送れるもの。晴れ、後曇り。頃日、毎朝坊や寝床内にて放尿し脱糞す。此の朝も同様、敷き布団を裏道の垣根に干す。陽当たり一時的にもよければなり。此の日の分は、午後より曇天に依り、殊に降雨の兆しあ

り。火に焙りて頂く。

昭和17年12月3日（木）

雲かかりあるも大体晴れ。朝、坊やウンコし、炬燵の火暖かく幾分乾燥しあり。明け方近く垂れたるらし。昨日より暫く途絶の牛乳、配達を受くるに至る。配達人、事故ありしに由る。切手、特に大東亜戦争一周年記念切手2銭を3銭に、5銭を7銭、売り捌き物発行。各四百枚請求せり。甘藷配給あり。うどん頂く。夜12時まで総計表作成の為に費やし、寢床一時。坊、中食に牛乳にパン。夕食時午睡の為、起きるやうどんを遣らずに牛乳にパンにて、極力過食を戒む。夕方より曇る。

昭和17年12月4日（金）

快晴。朝火を起こし茶を頂くこととしあり。今朝、同様5時に湯を沸かし下さる。中津局より切手類配給に付き、合理化を計る為、請求は各偶数日に一定したき旨来照あり。賛意を表し置けり。晴天なるも風寒し。朝7時、街路掃除の頃は降雨あり。午前中曇り、午後より晴れ。飯代わりに夕食に甘藷を頂く。坊4時頃起き、甘藷牛乳をやる。夜湯に連れらる。9時半余寝かす。炬燵タドン2ヶ入れ、今日は頗る火力強し。坊快く眠る。但し夕方、昼寝より醒めて「はしゃぐ」こと甚だし。

昭和17年12月5日（土）

曇り。朔風強く寒気強し。朝霜あり。後陽射しあるも、間もなく復た曇る。切手類請求は、偶数日に一定方協定越しあり。善処する旨回答せり。此日は特に多額を請求せり。払込み及び受領共、余行く。此日神様大祭、母堂も

一緒に参拝さる。4時頃帰宅。御供物の餅頂く。此朝は甘藷の残りにて済ます。パンも頂く。夕食は蒲鉾のテンプラ入り豆腐汁。頃日湯煖房を使用せず。炬燵を坊やの敷布団の上に置き、之が利用を期せり。此の朝も坊やウンコし敷布団を汚す。

昭和17年12月6日（日）

昨道子より手紙。余の謂う処は、実行不可能迂遠なりと称し居れり。俗人には不得止ものと認めらる。朝細雨、掃除に7時に表に出たるも、道路雨に濡れ居り引返せり。事務室の掃除す。昨、神様より頂きしと云ふ甘藷蒸しを数個頂き、パンをも頂く。午後3時甘酒を造る。頃日牛乳、正午過ぎ配達し来る。此朝6時、坊を便所に行かしウンコを済まさしむ。それで安心して居ると、必ず第二回6時半頃やる。之を怠る時、布団を汚す。珍しく此朝は小便のみにて汚し方少なかりし。午後2時頃負はねば寝らぬ癖付き、ミワさんの背に負はれて眠る。湯煖房取出す。母堂用の分らし。岩尾さん休日にミシン習いに来らる。此日も見えたり。伊勢さん小父の家より通勤。鶴居に帰らぬらし。一時間程仕事し行けり。昨、葉書四千枚は小包遞送の際一緒に持販り、此日一千枚だけ売って、20円折柄受取に行きし伊勢さんに交付し来る。時に陽射しあり。ミワさん蒲鉾1本35にて、10本求め来らる。南蒲鉾店のはお旨しくないと言ふが、必ずしも然らざるが如し。魚が多く入れたるものはお旨しく、否らざるものは味減ず。鰯1尾35にて求め来らる。うどん1把16銭にてメリケン粉12にて、前者は10把、後者は1貫目以上持来らる。猶菓子此日1円分、明日1円分求め得る約あり。夫れを受けて東京へ小包出す手筈。ミワさん保線区に行き国債

予約をなさる。此日と共に数回行かれ、漸く決定の運びに至る。午後8時、湯に行かれ9時眠る。坊や一向暖まらず。炬燵に入れ甘酒も、是はミワさん入れて下さる。初めより麴に華咲き居らず、変だと思いつつ掻き混ぜたるが甘味矢薩なし。併し万一を期し炬燵に入れて貰ふ。

昭和17年12月7日（月）

寒風強く、岩尾さん寒がること夥し。坊、事務室の入口の扉を明ける都度、自ら締める。木炭配達未了のことに付いて、栄町局に督促方頼む。後刻局長臨局。係員出張不在にて要領を得ざりしも、注意を促し来れりと云はる。パン屋の注文に依り、今日丸久の売出に牛肉100匁行列中に入り求め来られ、之を配達しパン10ヶ持来らる。其の外蒲鉾10本を3、5にて、ケーキ及び丸房露を2円分求め、夕食後より梱包したり。包み紙等の資材、漸く欠乏を来たす。昨、朝吹さん来られ久子さんの来否如何を不問。巖独りで充分に間に合わせて遣り切るから安神して呉れとのこと。普通なら忙しくもなったから至急久子が来る様、盡力方申出づべきを、反対に久子が居らぬも差支えなしと云った口吻らし。小包は道子と峯と折半し、蒲鉾も各5本づつ、丸房露ケーキ等半分し、更に二郎より淳に送り越せし白絹のチャンチャン子を発送取運ぶ。余り寒き為、タドン玉を盛り事務室に置く。午後8時30分までかかる。夫れより10時まで仕事するつもりを、坊を寝せる為、9時過ぎ寢床に入りたるも遂に寝入らず、遂に起き上がり、余の眼鏡を持ち出し籬（たが）を破損せしむ。

昭和17年12月8日（火）

午前中陽射しあり。前田さん便所に草履を墜す。昨日の

出来事なり。今朝便所より引き上げ束子（たわし）で洗って乾かしておけり。時々降雨せし如し。夕方風呂に、次いで常会に行かる。今朝、貢分小包猶700グラムを入れ得べし。パン7つを入れてやる様、ミワさん云ふ。余感心して、折角荷造りせしを解き直して、パンを入れ発送す。巖来、甘藷持来る。田舎より求め来れるものの由。之を夕食に頂く。割合お旨しく頂きたり。甘酒に砂糖を入れて巖に出す。寒さ酷し。火がないので皆困って居る様子。前田さんより岩尾さんの方、寒がりに見ゆ。

昭和17年12月9日（水）

朝の間晴れ、次第に曇り。伊勢さん七輪に勝手に火を起こす。為替5時まで。ミワさん左の肋骨病む。清松医院に行き診察を仰ぐ。肋間神経痛なりと3,00。遂に坊やを負ふ能はざりし。余、多忙を割きて守りす。鉄屑保管のもの提供方取計らふ。栄町局長より木炭到着。配達人夫賃交付方電話ありしも、人夫の都合つかざりしか到着せざりし。此の朝、痔出血。甘藷を食べると腹張り、消化不良となるに兆すやと思はる。昼間瓦斯を漏らさず。張満の感のみ強し。

昭和17年12月10日（木）

晴れ、後曇り。坊やミワさんに負んぶできぬ。偶数日切手請求。5銭印紙到着の由に付き、二千枚請求す。五円十円、各一枚請求あり。防空演習開始。警察消防士活躍。爆弾落下。もんぺ戦士の活動目覚し。夕食後、屏風を事務室に持込み燈光遮蔽せしも、尚光線漏れるとの批難あり。9時過ぎ演習中止終了。

昭和17年12月11日（金）

晴れ、風強く時に曇り少雨。坊を日光面に抱き、ミワさん不在中守りす。昨、為替5円岩尾さん欠損。半額弁償せしむ。午後より木炭20俵分、産より配達。賃銀三千支払ふ。此日まで七輪二ヶを事務室に置き、無煙炭を加えて暖を採る。年金額百円未満に対し、払込額追徴、追加計理せらる。夜、坊湯に行き伊勢さんも居り世話して貰ふと。林檎汁やる。西牟田さん会津洋裁学校に奉職。

昭和17年12月12日（土）

午前晴れ、後次第に曇り。坊や咳、時々する。昨夜二回小便洩らす。火鉢赤色焼1, 80にて二個求め来らる。是れは為替二名に、各股火をせしめん為なり。神様より借用の木炭を、一俵と三分の一程返却。品質優良を賞美せらる。大根を頂き来らる。パン10ヶ求め、駅に債券配給に付き、竹折主事とも協議。申し出に依り、今回は市役所分を犠牲的に売捌くことに同意したるも、貯債猶拾余枚残り居るに付き、其の分を駅に振向け、市役所分は返戻差支えなしとあり。夜、眼鏡を太陽堂に籬（たが）を嵌めて貰うべく、ミワさんに頼む。店頭にて眼鏡を落とし半分に割る。余眼玉を破りたることは、罷めることを諷する神の啓示ならんと云ふ。余親ら太陽堂に至り、破れたるを其の儘に、籬のみ取換え方を交渉せしも、破れたままでは光線の屈折を遮ぎられ、眼球を痛める恐れありと聞き、且つ現在の玉は昔のものより質勝れ居る旨を聞き、新調することとなり。此分3, 00、籬1, 50、計4, 50にて。今度は更正分の眼鏡にて、大いに更始一新の生活を期すべしとの神の啓示ならんと思ひ。辞職も眼鏡がなければ盲人同様、罷めた意義が分からぬことになる。人為

を罷めて眼鏡の要を感じぬこととなる。人為を罷めるまでには当たるまいと云ふので、後者を採用せしものなり。呵々（かか）。

昭和17年12月13日（日）

手当交付に依り割当額を決定。媒介、久垣氏来たり色々咄す。此夜燈火管制。粉（そぎ）氏来津。要は淳坊を澄子が引取るか否かに帰す。余は粉氏に責任は負わさぬ旨強調したるも、澄子の同意なければ問題にならぬから、一応問合わせると約す。晴れたり曇ったり、風寒し。手当額は前年14割に対し17割。

昭和17年12月14日（月）

切手類請求。陽の射す向きは暖かなるも、其の他は寒し。昨火鉢2ヶに対し股火を給することにし配付。但し為替係の兩名にのみ。郵便は七輪に無煙炭の儘とす。久垣氏午前中来。恰も債券で中津局へ貰ひに行く時間が切迫し、資金請求もあり、話しを打切り出発す。粉氏昨夜泊まり、11時の汽車にて出発を一緒に来たりしもの由。

昭和17年12月15日（火）

晴れ。警戒警報は昨朝8時解除の由。此日通信区より報国10円十八、5円貯八請求。中津局に貰ひに行く。午後3時までには届ける約束なり。債券は市役所分なり。田所氏のみ居られ、竹折主事は税務署に行かれ不在。田所氏より債券を頂く。此の分は通信区に送付す。此日消耗品、為替用紙の交付あり。駅より証券保管80余名、一括依託の要請あり。用紙欠乏。鶴居より二冊の融通を受けたる計り。臨時請求す。澄子より通信あり。

昭和17年12月16日（水）

概ね晴れ。頃日は午前中晴れ、午後より曇り。此日も同断。次第に雨模様となる。道子より金20円送付越せるに付き、之に対する返事やら、林檎送付越せる青森、阿部啄二氏より鉄道事故で届かぬでないか、客手荷物として駅関係員名にて発送せし不安もあり。余の返事遅延の為、頗る心配をかけし如きにつき、之に対する返事。米一氏の強要に任せ、久子が一緒に米一と門司まで行き金50円貰ひ、内20円を澄子が久子より受取りたる問題と、14日久垣氏が午前中来局、淳問題につき、万一澄子が引取らぬ場合、余が責任を果たすか否かの問題につき、澄子に問合わせの要もあり、夫れ々々葉書（阿部のみ信書）を書く。此日午後5時より、丸久肉屋の若主人妻帯披露式を、鶴居の本宅にて挙行。一班全部を招待す。自動車二台に分乗、ミワさん行かる。午後8時帰宅の予定が11時になる。土産物、時局柄手に入り難きものにて、カステーラ、羊羹、林檎、カマボコ、鮭、其の他。班則20円を持行く。一人前2円としては、余りに薄きに過ぐ。11時寝る。

昭和17年12月17日（木）

快晴。木炭一つ松80円余、栄町75円、豊後町25円程、而して当局50円。栄町長臨局、一緒に払込まる。切手請求なきも、窓口多忙寸暇なし。扁桃腺膨れて頭痛を感じず。坊やパン甘味乏しき為か、余り欲しがらず。牛乳半分程残す。カステーラ、カクテン等は非常にお旨しがる。湯に行く間も仕事に追はる。昨10円為替欠損、半額補填す。陽の照る方面は暖かく、小春日和の感あり。50円

国債窓口売捌き分、中津局より受取るべく余出局。竹折氏より貰ひ、外に債券50円分は豊後町局より取寄せ売ってやる。

昭和17年12月18日（金）

午前中晴れ、午後次第に曇り。夕方近く降雨。伊勢さん今までの仮住居より局舎二階に移ることとなり、夜荷物搬びに姉さん来らる。頃日、朝5時神詣り励行さる。坊や乱暴募り、母堂ミワさんを手古摺らす。佐世保松川キミより手紙来る。寿夫入営、福岡聯隊に居り、余の寓を訪ねし由（澄子よりの報）。朝切手代納付の為、中津局に至りしに、吉富局長栄町局長も居らる。受取りの為には、小母車を押してミワさん行かる。余の扁桃腺未だ癒せず。夕方より痛む。逡信局保険課より出張員、中津局に来たり。栄町長と鶴居に行かると。

昭和17年12月19日（土）

此朝降雨。遂に掃除を断念す。併し雨は次第に歇み、曇りの俣持続す。久子午前中来たる。パン、飴、林檎等、土産に持来る。飴は米一氏の佐賀の土産、林檎は青森阿部氏よりの贈り物。パンも小麦粉の一部は米一氏よりの寄贈と云ふ。久子リヤカーを瀬口より借用、蒲団類一式を持込み来る。粉（そぎ）氏に電報して「アス 13ジ 00 コクラエキニテ 合イタシ」47にて発送す。夕飯うどん。丸久肉売出し。百名からの人集まり、特別に200匁分与を受け、久子行列に加わり、数回に他人の依頼分を取次ぎ購ふ。三回目に売って呉れぬと初めて断念す。猶シジミ貝売り婆にて色々頒与を受け、少し闇売りの嫌いあるも求め来れる如し。こちらからも鼻紙、障子紙、

其の他色々求め遣はす。米も六升程遣はす。醤油、味噌も遣る。伊勢さん二階に泊まる。久子も泊まることとせり。久垣氏夜来たり。粉氏電報を見て当地に来たり、久垣氏と談合。余を訪ふこととなる。余は別に謂うべき問題なく、只久子の齎らせし新情勢は、六ヶ月は速成科、一年を本科とし、本科修了せざれば一人前にはなり難しとあり。故に曩に六ヶ月と称せしも、一年に修正し、其の後は淳を世話すべしと云ふ。これに対し粉氏にも直接会わせる要ありとて、久子を連れて10時近く辞去さる。余の部屋に久子の床を陳（の）べ、11時過ぎ床に入る。手当時間外着、立替交付。

昭和17年12月20日（日）

午前1時を過ぎ久子販らず。母堂及びミワさん寝らずして販りを俟たる。2時ミワさん迎えに行かる。途中、夜警に逅（あ）ひ色々尋問を受けたる由。久垣氏弁解すと。此夜の会合は、粉（そぎ）氏より何等の意見も聞き得ざりしと。同氏は10時半頃販宿。久子は久垣氏息と鼎座、種々協議したるも不得要領にて、引上げの不得已に至りし由。午前9時、余は昨夜のうどんを食べ、味飯を炊かれたるも差措き、パン二片食べ済ます。事務室内の洒掃にかかる。巖来たり。自分の許しを得ずして荷物を管理梱包の上持出せし不都合を責め、遂に怒号暴力に及ぼんとす。余夫れまでは知らぬ振りせしも、堪え難く飛出す。累を余に及ぼし皆して自分を苛めると謂ふ。荷物の中には巖先妻の品物あり。許可を得ずして持来たりしは、其の非久子に在り、宜しく其の品物を吐き出すべしと。久子は居丈高になり、給料なしに今日に逅ひしに対し、夫れ位のこととは差支えなしと主張す。余は夫れは筋合いが

違ふ、給料呉れぬからとて、人の品物を無断で持出す如きは妥当ならずと、久子をたしなめ、巖の態度を是正する意味で注意す。かくて一時間を徒費。森田氏、岩尾氏洋裁に二階から下りられず11時に及ぶ。遂に中止せし如し。巖は余に謝罪して返る。甘藷持来る。腐敗分子多く、3時過ぎより調理したるも廃棄物多かりし。折柄、市よりも配給あり。夕方煮る。久子は3時の汽車にて出発す。荷造りに重量超過、駅構内にて調節す。米が最も重量を食ひし如し。南瓜も二つあり、頗る高価の如し。之を取出し、掛け布団も同断。他に行李一個あり。50銭迄加徴せらると。坊やの哺乳瓶昨日破壊し、本日再び求め来らる。3時よりミワさんに負われて眠る。

昭和17年12月21日（月）

快晴。前田員10円欠損。此日5円補給。切手請求なきも、電報規程改正に対する訂正等にて、終日多忙。道子へ小包梱包。午後10時から12時、糊亡くなりて歇む。ミワさん菓子屋へお百度、丸坊露2円求め来らる。乃ち前日の蒲鉾と併せ荷作りす。坊や悪さ募り、灰を撒布し余の椅子の上に堆く積む。朝巖来たり。箆筒の中は零となり、紋付き及び塩川亡母の片身着物のみ残り、大島、着物及びコート等なし。一応全部提供の上、改めて許しを得て持去ることにしたし手紙を、余より出して呉れと云ふ。夕方漸く認め発送す。此日ミワさん誕生日。魚のテンプラ、なまこ等あり。甘藷ありしも後廻しにして、豊富ならねど丹精の御馳走の膳を頂く。

昭和17年12月22日（火）

薄雲はびこり、陽の光鮮やかならず。此の朝、敷蒲団に

ウンコせし由にて、部分的に洗って塀に乾かすも、陽光弱くして乾くに至らざりし。偶数切手類中、少額丈け請求。葉書六千枚。然るに庶務より、即時受取り来るよう電話あり。事由は葉書数量多く、二階持運び難儀なれば、倉庫に置ける間受取りに来て呉れとのこと故、早速出掛け受取る。郵便白行囊二ヶ。久子が来たる際、返戻越したるも、用途以外に使用せざる様御達示もあり、頃日風呂敷に包むことにして居る。

昭和17年12月23日（水）

此の朝甘薯1ヶ残あり。母堂風邪、此朝遂に起床せられず。ミワさん調理。曇り、後降雨。お掃除中降らず。ミワさん菓子屋、蒲鉾屋等にお百度。菓子及びパンは相当数量手に入りたるも、蒲鉾は当分魚の入荷あるまで製造せぬとて、店を閉じて居る。朝は余、坊を負ふて掃除万般を了す。其の後はミワさんに負はれてお使いに行く。伊勢さん鶴居に転勤を申出づ。頃日の伊勢さんの態度、電話を私用に遣い、往々窓口へのサービスを怠り勝ちとす。我儘極まる転勤申出は、此の意味からも神の啓示と認む。坊、鮎入れ丸桶をパン入れとする為、取り出せしに、夫れを押しして事務室に来たり。其の中におしっこす。夕餉にパン2ヶ頂く。坊余り活動したか、7時頃ミワさん負はれると僅かにして寝る。佐世保警察キミ子より葉書の返事出す。寿夫小倉気付けとして葉書が来たと云ふ。何処に居るか知らせて呉れとあり。海外に出掛けしかも分からぬ故、そう返事せり。道子よりも為替券受取り呉れと申越す。之に対して返事、葉書にて出す。11時までかかる。夕方降雨歇み、月清し。

昭和17年12月24日（木）

薄雲漲り快晴ならず。11時半頃より髭剃り。洋服は冬分見当たらず、夏のを取出し着用。零時30分お茶を頂き、定刻1時前、警察新館二階会議室に至る。先着三名。開会1時30分。上草履に改めらる。国民儀礼に初まり、九水所長の電力節約に付き、30分の講演あり。防犯、防火、防諜等の外火災、伝染病、防空問題に及び4時までかかる。田所氏、広台駅長が色々問題の対照となり応酬す。飯宅、更衣。夕食は母堂準備し下されしものを頂く。ミワさん切手受取り十七銀行へ。小切手持参、資金請求等多忙を極むと。母堂早く休まる。風邪猶収まらず。余の仕事も証券保管数多く、二度分一類調査、切手類売捌き出納等にて10時寢床。伊勢員4時帰宅。坊入浴、林檎汁やる。

昭和17年12月25日（金）

大正天皇祭。昨夜降雨。道路乾かず、掃除中止。午後1時より東京峯、貢、及び青森阿部へ、小包梱包材料なき為時間かかり、午後9時に迨（およ）ぶ。朝事務室掃除中、鶴居局長臨局。伊勢氏問題の相談なりし。来年匆々出向のことに諒解を得たり。母堂本朝床払へ。朝ウドン、夕食、余のみウドン頂く。尚小包は菓子、麵包。蒲鉾は手に入らず。菓子も根気克くお百度を運び手に入れらる。パンは甘味殆どなきも、一時に3円分呉る。

昭和17年12月26日（土）

曇り。朝小包梱包。3ヶ書留小包として発送。料金196かかる。受付小包、急に増大す。ミワさん買物に依然努力を続けらる。切手類請求。受取りは葉書だけ4時頃、余

取りに行く。為替主務者印を要する事故（送達紙の振出番号相違し証書発行）に依る。一類発送上困るので、余序でに訂正印を貰ひに行く。朝伊勢さん、8時20分頃来局。後より聴きしことながら、此日午後5時10分、給料残23円余を遺失せりと。

昭和17年12月27日（日）

寒気猛し。小雪さえ降り、坊大部分ミワさんに負はる。朝は余負ふて掃除するを例とす。森田さん事務室を洒掃（しゃそう）す。午後夕方、森田さん妹及び坊ちゃん来る。此の間屢々駅へ迎えに出らる。急に二階は賑やかになる。文書、数件起案。夜10時を過ぐ。パン、富士パンより求めらる。此の方甘味あり。型劣る嫌いはあり。

昭和17年12月28日（月）

殆ど陽照らず。切手類請求。道子より20円再度送り越す。窓口多忙。小包多数、大行三に納まり切らぬ程度。切手百二十四円も珍し。此日限り、切手売捌き所廃止の分に対する切手類の売捌き停止、当局区内は六カ所整理。一番多量請求の西野三二郎氏分も引揚げらる。位置が稍場末にあると、中津局より短距離にあるとの理由ならん。松永司老氏分も同断。之を四つ角に持行き、新たに一個所増設せらる。

昭和17年12月29日（火）

珍しく暖かにて、陽向は小春日和とも称すべき風情あり。風風ぎ、火持ちよし。道子宛て20円券、書留にて返付せり。中津局に資金三千元請求。伊勢氏の為に遺失物届書を記載、ミワさんに本署に提出せしむ。坊やを朝、余

が負ひ、朝食後ミワさん負ふ。餅入り箱参ヶ求め来らる。
余之を難ず。伊勢さん泊まる。

昭和17年12月30日（水）

一両日来、暖か。坊を負ふて街路掃除す。重くして肩痛し。座敷掃除に当たる頃、秋永鶴居局長来局。退職後、補充は罷（まか）りならぬと云ふ。其の筋の意向なり。伊勢さんの問題も中止の已むなきに至り、昨夜母堂とも談合せりと。凡ては元に戻し、伊勢さん再び当局に居ることとなる。切手請求。受取りはミワさん意識せずして中津局に行き、電話通知に依り、余行かて済む。尤も葉書は一方に余り請求せざりし。伊勢氏に対する送別の味飯は、自然中止せり。夕食はうどん、蕎麦を頂く。天神町の某氏の請を容れ、小母車に餅を入れて配達してやる約束で、天神町を通ったら、うどん屋の前で売出して居るを買ひ求めたもので、情けは人の為ならずを地に行ったものと、ミワさん感嘆し居らる。6時後より我等を除き夕食を食べ、写真撮りに揃って行きし如し。林檎頂く。坊には殆ど毎夜遣ることにし居る。伊勢氏宿る。

昭和17年12月31日（木）

晴れ。朝、残りうどん頂く。昨餅屋に糯米を小母車にて持込まる。隣組より各一名、七合づつ49、及び予て久子よりの一升と、五升九合を携いて貰ふ。今朝8時に来いとのことなりしも、10時頃行かれたる如し。外に餅屋で、飾り餅を4円にて分けて貰はれしを自慢さる。道子、貢、敏子さんより手紙来。敏子さんより母堂20円贈らる。昌成氏の名前にて。更に甚十郎氏よりも同額の贈り物ありし如し。道子より送付の猫の玩具の小包到着。坊余り

喜びもせぬ。森田さん3時45分、静子さん、正明さん、秋ちゃんと共に出発。味噌醤油、麦、其の他の土産品、箱に一杯、手荷物として発送の由。新聞では正月廃休、二四両日執務することに、次官会議で定められし如きも、此日何等の通牒に接せず。伊勢氏7時を過ぎるまで、前田氏と居残り郵便に加勢す。但し、為替窓口の欠損11円ありしものの如し。6時まで取扱時間延伸、中津と同一歩調を採る。此日、蒲鉾屋南より5本手に入れ来られ、家に在る分の内より一本加えて、貢へ3本峯へ3本、着小にて発送せり。